**＜　資金繰り管理実務講座　卒業試験（試験問題）　＞**

（氏名）

【　点数　】　　　　　　　　点／１００点

【　合否　】　　　　　合格／不合格（７０点以上が合格）

【　設問１　】（各２点×１０問）

以下の文章に適当に穴埋めをしてください。

　会社の事業継続のために重要なことは（①　　　　）の管理が大切になる。どんなに売上や利益が増加して（　②　　　　　　　　　　　）と言われる状態になると資金が廻らなくなる。つまり、売上や利益がどんなに増えても（　①　）の残高が増えていけば会社は継続できる。逆の言い方をするのであればどんなに赤字になっても（　①　）

の残高がマイナスにならなければ会社は倒産しないのである。

　また、②の状態になるということは、売上高が増加すると（　➂　　　　　）と（　④　　　　　）が必然的に増加していく。また、④が増えていくということは翌月の（　⑤　　　　　）も増加していくので、会社の（　⑥　　　　　　）も並行して増加していく。

　この⑥は（　⑦　　　　　）で対応するのか銀行融資で対応するのか分かれます。ちなみに銀行融資で対応する場合には原則、（　⑧　　　　　　）で対応します。ちなみに⑧で対応する場合は、短期継続融資か（　⑨　　　　　）で対応するケースが殆どである。

　しかしながら殆どの会社は資金繰り表に連動をした（　⑩　　　　　）の策定をしていないので場当たり的な銀行融資の対応しか出来なくなる。

【　設問２　】（各１点×１０問）

以下の文章を読んで正しい場合は〇、そうでない場合は✕をつけなさい。

１．資金繰り表は年繰り表・月繰り表・週繰り・日繰り表などがある。（　　　）

２．資金繰り表の収支には経常収支・投資（設備）収支・財務収支の３つである。（　　　）

３．通常、資金繰り表は、将来の経営判断に資する財務情報を提供するものであり、過去の資金繰り表に意味はない。（　　）

４．損益計画の経常利益と資金繰り表の経常収支はイコールになるのが当然である。（　　　）

５．令和３年２月末の試算表の現金預金残高が５，５００万円（内、銀行融資を受けている銀行に定期預金２，０００万円）あった。この場合の令和３年の実績資金繰り表の現金預金残高は５，５００万円である。（　　　）

６．受取手形の管理方法は裏書譲渡・期日前割引の２パターンだけである。（　　　）

７．経常収支がマイナスになっていても財務収支がプラスになっていれば資金繰り的には問題ない。（　　　）

８．予定資金繰り表を策定する場合は、直近１２～36ヶ月程度の実績資金繰り表を作成したほうが会社の特徴を把握できる。（　　　）

９．資金繰り表の財務支出は金融機関別長期短期別に詳細に区分しなくても返済金額をまとめておけば特段資金繰り表上は問題ない。（　　　）

１０．受取手形を裏書譲渡手形として使用する場合は対象の買掛金の支払額と相殺しても構わない。（　　　）

【　設問３　】（各３点×８問）

以下の単語の説明を簡潔にしなさい。

１．経常収支とは

⇒

２．ファクタリングとは

⇒

３．裏書譲渡手形とは

⇒

４．実態債務超過とは

⇒

５．リスケとは

⇒

６．売上債権回転期間とは

⇒

７．棚卸資産回転期間とは

⇒

８．経常運転資金とは

⇒

【　設問４　】（１０点）

＊資金繰り表を策定する時の財務収支に関することについて、下記の貴ワードをすべて使用して『資金繰りを作成する上において財務収支で他のコンサルタントと圧倒的差別化を図る方法について』適当に文章を作成してください。（同じ語句を複数使用することも可）

＜　答え　＞

（　資金繰り表／経常支出／財務収入／財務支出／返済予定表／短期融資／長期融資／返済予定表／返済予定日が休日の時／金融機関別融資別／支払利息／期日一括返済／約定弁済額　）

【　設問５　】（１０点）

＊以下の取引がある前提条件で実績資金繰り表を策定する時の必要となる帳票を列挙しなさい。

（　業種⇒卸売業・年商７億円・税引後当期純利益７００万・業歴１５年・社員数１２名・銀行融資取引有・クレッジトカード取引有・リース取引有・販売代金に手形取引有・支払に手形取引有・会社名義の自動車保有７台／会社の土地及び建物所有　）

＜　答え　＞

【　問６　】（　各２点×５　）

＊金融機関が欲しがる資金繰り予定表について以下の（　　）のキーワードを参考にして簡潔に各々を説明してください。

（　資金使途　）

（　返済財源　）

（　保全　）

（　融資期間　）

（　レート　）

【　問７　】（各２点×８）

経常収支および財務収支が下記のときの状態と対応について記してください

